

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXV

平成23年3月

熊取町教育委員会

## はしがき

古代から熊取野とよばれた本町域は今まで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に埋蔵文化財包蔵地として43ヵ所を数える遺跡があるなど、町内全域に遺構や遺物が埋蔵されています。

熊取町では昭和60年度から国庫補助金等を受けて発掘調査を実施し、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成22年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したもので、今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

熊取町教育委員会  
教育長 西牧研壯

## 例　　言

1. 本書は、平成 22 年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化グループが実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化グループ考古学技師前川 淳を担当者として、平成 22 年 4 月 1 日に着手し、平成 23 年 3 月 31 日をもって終了した。  
調査では、掘削精査した調査区を写真撮影し、調査区位置図（平面図）、調査区壁面図を作成し記録した。
3. 本書は、平成 22 年 4 月 1 日から平成 22 年 12 月 29 日までの発掘調査成果及び平成 21 年度第 4 四半期に実施した発掘調査結果を掲載する。
4. 本書における図面の標高は、T. P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の上色は、『新版標準上色帖』第 10 版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修 1990 年度版）を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査補助員の参加を得た。  
関井澄子、森田享子
7. 本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化グループ考古学技師前川淳が行った。

## 目 次

第1章 はじめに .....	1
第2章 地理的環境と周知の遺跡	
第1節 地理的環境 .....	1
第2節 歴史的環境 .....	1
第3節 周知の遺跡 .....	3
第3章 調査成果の概要	
第1節 大谷池遺跡09-1区の調査 .....	5
第2節 小垣内西遺跡10-1区の調査 .....	6
第3節 野田遺跡10-2区の調査 .....	8
第4節 野田遺跡10-3区の調査 .....	9
第5節 野田遺跡10-4区の調査 .....	10
第6節 東円寺跡10-1区の調査 .....	11
第4章 まとめ .....	13

## 第1章 はじめに

平成22年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は35件（平成22年12月29日現在）である。

本書では平成22年度12月29日までに国庫補助事業として実施した野田遺跡をはじめとする町内遺跡の調査5件と、平成21年度第4四半期に実施した1件を合せた6件の発掘調査の成果について概要を報告する。

遺跡名	所在地	申請者名	申請面積	調査年月日
大谷池遺跡09-1区	桜が丘2丁目6-55	中川進	304.61m <sup>2</sup>	平成22年2月25日
小垣内西遺跡10-1区	小垣内西1丁目110番1号	甲田伸弥	130.17m <sup>2</sup>	平成22年8月3日
野田遺跡10-2区	野田3丁目2288番2の一部、228番7	田中 桜	80.08m <sup>2</sup>	平成22年9月2日
東円寺跡10-1区	野田2丁目2209-5他	小島正二	250.20m <sup>2</sup>	平成22年9月27日
野田遺跡10-3区	紺屋1丁目176番1の一部	門田 寿	254.95m <sup>2</sup>	平成22年11月16日
野田遺跡10-4区	紺屋1丁目1044番2の一部	中西裕章	176.57m <sup>2</sup>	平成22年11月29日

## 第2章 地理的環境と周知の遺跡

### 第1節 地理的環境



熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.23km<sup>2</sup>を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では

狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に水源を持つ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の4水系が存在している。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑用の溜め池を目にすることができる。

### 第2節 歴史的環境

遺跡数は平成22年12月現在で43ヶ所を数えている。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、野田遺跡の所在する野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器やそれに後続する時期の石鏃が検出されている。

明確に弥生時代とする遺跡は発見されていない。JR熊取駅のある大久保では、駅前整備事業に伴って昭和61年から平成2年の間に発掘調査を実施し、畿内第V様式を示す土器等を検出して大久保遺跡群として周知されたが、その土器群は古墳時代初頭の所産と考

えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、既に開発で消滅してしまって詳細は伝わらない。宅地となってからの付近の調査では埋蔵文化財は一切確認できていない。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98-1区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥第V様式といわれる土師器や須恵器を検出している。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡（現：野田遺跡）87-1区の調査で建物4棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成10年度に久保で飛鳥時代から奈良時代の土器群を伴う遺構群を検出し、平成11年7月熊取町七山（七山東遺跡）で西暦750年以降の奈良時代を示す多くの須恵器が相次いで検出された。また小垣内においては、平成13年度の試掘調査で中世の土器とともに奈良期の須恵器破片が出土している。これらのことから熊取町全域は奈良時代には本格的に開発されたものと考えられる。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成8年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。主だったところでは野田の野田遺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡、大久保の大久保E遺跡、小谷の久保A遺跡などで瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。平成13年度に幅10m程の溝跡他を発見した小垣内西遺跡は地名に因る集落跡の可能性もある。平成15年度にはその北東200m付近で中世の井戸跡等を有する集落跡の小垣内中遺跡を発見している。中世末期の様相については、和田にある重要文化財来迎寺の新本堂建設工事の際、境内から多数の16世紀の土師器皿や瓦片が出土している。

江戸時代の遺跡としては、五門の重要な文化財中家住宅およびその周辺遺跡、大久保の重要な文化財降井家の降井家屋敷跡がある。平成13年度の中家住宅東側隣接地（中家住宅周辺遺跡）での調査では、3m<sup>2</sup>程度の1箇所のトレーニング内から5,500枚の土師器皿と、巴文軒丸瓦片が出土している。

### 第3節 周知の遺跡

周 知 の 遺 跡 一 覧 表

遺跡名	種類	時代	地目	立地	面積	主な成果等
1 来迎寺遺跡	集落跡	謙倉	宅地	丘陵腹	3,100 m <sup>2</sup>	15～16世紀の陶磁器・土師器・瓦等検出
2 池ノ谷遺跡	散布地	臼石器	水田	平地	62,300 m <sup>2</sup>	
3 大宮遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	5,000 m <sup>2</sup>	
4 東円寺跡	寺院跡	平安～江戸	宅地	平地	48,000 m <sup>2</sup>	瓦・土器多款出土。寺院の形態は不明
5 城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	61,800 m <sup>2</sup>	
6 成合寺遺跡	墓地	室町	畠地	丘陵腹	69,000 m <sup>2</sup>	14世紀代の600基以上の土壙墓群等検出
7 高麗寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	34,800 m <sup>2</sup>	土塁・堀切等の遺構を確認する
8 山城跡	城郭跡	謙倉	山林	山頂	45,300 m <sup>2</sup>	月見ノ亭・馬場・千疊敷の地名が残る
9 五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	2,300 m <sup>2</sup>	土師器片等が検出される
10 五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,900 m <sup>2</sup>	現在消滅
11 五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	1,500 m <sup>2</sup>	現在消滅
12 大津中世墓地	墓地	室町	墓地	平地	18,400 m <sup>2</sup>	享徳四年(1445)铭の五輪塔地輪等出土
13 久保城跡	城郭跡	謙倉	水田	平地	86,300 m <sup>2</sup>	飛鳥期の溝から須恵器・土師器・他瓦器多い
14 山ノ下城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	6,800 m <sup>2</sup>	
15 大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	51,400 m <sup>2</sup>	
16 祭礼御旅所跡	祭礼跡	室町	山林	丘陵	6,300 m <sup>2</sup>	五門・緋屋共同墓地
17 正法寺跡	寺院跡	謙倉	宅地	丘陵	55,000 m <sup>2</sup>	
18 小渠内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	7,000 m <sup>2</sup>	毘沙門堂跡、現在消滅
19 金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	5,100 m <sup>2</sup>	大森神社神宮寺
20 烏鳥城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	72,600 m <sup>2</sup>	
21 草ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵腹	32,000 m <sup>2</sup>	
22 花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	28,000 m <sup>2</sup>	
23 降井家星歌跡	星歌跡	室町～江戸	宅地	平地	12,000 m <sup>2</sup>	屏風地を区画する溝や近世の陶磁器等出土
24 大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	8,100 m <sup>2</sup>	
25 下高田遺跡	条里跡	謙倉	田	平地	57,000 m <sup>2</sup>	
26 大久保B遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	47,800 m <sup>2</sup>	弥生末～古墳初期の遺物
27 越后遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	22,400 m <sup>2</sup>	奈良～平安期の河川跡検出
28 白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	129,600 m <sup>2</sup>	
29 大久保C遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	4,500 m <sup>2</sup>	
30 千石堀城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	1,000 m <sup>2</sup>	天文年間(1573～92)の姫賀衆徒の城跡
31 口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	11,200 m <sup>2</sup>	平安末～鎌倉初期の遺構、遺物
32 大久保D遺跡	散布地	謙倉～江戸	宅地	平地	9,200 m <sup>2</sup>	
33 大瀬遺跡	散布地	謙倉～江戸	田	平地	4,900 m <sup>2</sup>	13～14世紀の瓦器等検出
34 久保A遺跡	散布地	謙倉～江戸	宅地	平地	4,400 m <sup>2</sup>	埴物跡、8～14世紀の土器
35 大久保E遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	2,900 m <sup>2</sup>	弥生末～古墳初期の遺物多数
36 久保B遺跡	集落跡	謙倉～江戸	宅地	平地	5,000 m <sup>2</sup>	13～14世紀の瓦器等検出
37 中家住宅周辺遺跡	集落跡	室町～江戸	宅地	平地	21,300 m <sup>2</sup>	近世の陶磁器多数
38 朝代北遺跡	散布地	謙倉～室町	宅地	平地	60,000 m <sup>2</sup>	13～14世紀の瓦器等検出
39 七山東遺跡	散布地	奈良～室町	田	平地	80,000 m <sup>2</sup>	古代須恵器・土師器・瓦器等検出
40 小屋内西遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,600 m <sup>2</sup>	古代須恵器・瓦器・瓦等検出
41 大久保F遺跡	集落跡	弥生～室町	宅地	平地	1,436 m <sup>2</sup>	石器・平安頃の埴物等検出
42 野田遺跡	集落跡	讃文～江戸	宅地	平地	310,000 m <sup>2</sup>	織文石器・古代～近世の集落
43 小垣内中遺跡	集落跡	奈良～室町	宅地	平地	3,500 m <sup>2</sup>	中世の集落

### 熊取町遺跡分布図



### 第3章 調査成果の概要

#### 第1節 大谷池遺跡 09-1区の調査



大谷池遺跡は1970年代後半から1980年代にかけて実施された分布調査の際に、池岸で須恵器の破片が採取されたといわれるなど、須恵器を生産した窯跡が発見される可能性を含む遺跡である。熊取町で最大級の範囲を有する大久保B遺跡が存在する駅前から、大阪外環状線に沿って東の方向へ、かつて比較的規模の大きな寺院があったとされる野田地区へ向かう途中の北側の丘陵上には「大谷池」という面積23,000m<sup>2</sup>程の池が存在している。大谷池は町内の多くの池と同様、近世には農業用溜池として利用された池で、西側には現在も急峻な堤が残されている。池の西側以外の周辺は宅地化が進んで、池岸まで住宅が迫っている。池の西側同様に南側の下域に水田が営まれていることから、元来は南側も大きな堤状を呈していたものと考えられる。また、大谷池は現在両端が広がった分銅のような形状をしているが、当初は横方向に長い長方形に近い形状だった可能性がある。北側と南側の住宅地の造成で、池を埋め立てて池の形状を変えたものと考えられる。しかしながら個人住宅の建築に伴って実施した近年の確認調査においては、古墳時代ばかりか中世の埋蔵文化財は一切出土したことがなく、池の築堤に伴うと考えられる層から近世陶磁器片が少量検出された例がわずかにある程度で、その他の調査では宅地造成の大幅な盛土が検出されているのみである。

#### 大谷池遺跡 09-1区の調査

調査地 桜が丘2丁目6-55

調査期間 平成22年2月25日

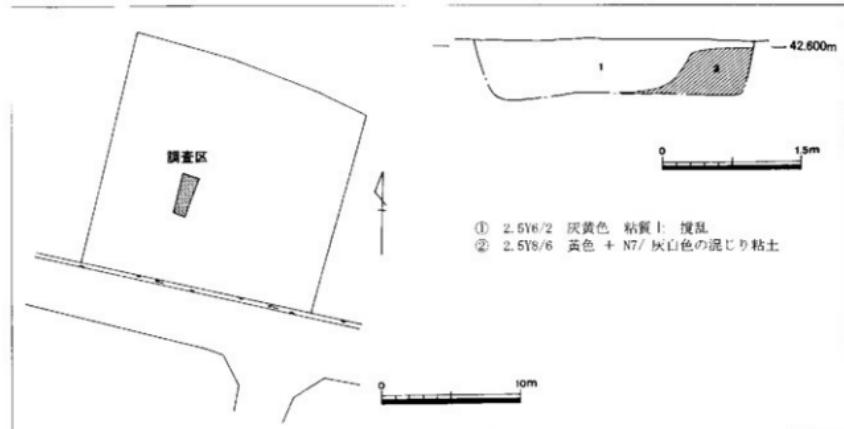
位置と環境

調査地点は遺跡の南西端、大谷池の南岸に位置する。申請地は現在大谷池に南側から張り出した半島状の地点に営まれている桜が丘の住宅地の一角に所在し、この付近が大谷池

の池岸に大幅な盛土を行って拡張造成された場所であると推測される。この付近では近年個人住宅の建替えが多く行われ、平成12年度の大谷池遺跡00-1区や00-2区の調査では、既に埋め立てられてしまった大谷池の旧堤防、もしくは旧来存在した丘陵地の地層が検出されている。

#### 調査の内容と結果

機械掘削による調査を実施した。地表面下-0.6m程掘削しても、旧来の自然地層には届かず、近年住宅地を造成する際に埋め立てられた盛土を検出するにとどまった。



この地域の埋蔵文化財調査で期待される須恵器の窯跡の発見については、今回の調査地点においても何ら手がかりを得られなかった。

#### 第2節 小垣内西遺跡10-1区の調査



## 小垣内西遺跡について

小垣内西遺跡は平成13年度に住宅地の開発に伴って実施した試掘調査の際に、幅の広い溝と掘立柱や土器などを検出して新たに周知されることになった中世の集落遺跡である。遺物の中には古代の須恵器などを含み、瓦器や土師器等を多く検出する状況は、すぐ西側に広大な範囲を有する野田遺跡とほぼ共通している。しかしこの遺跡の中央部から検出された幅約10m深さ約2mの溝状遺構は熊取町内では他に検出例がなく、中世の包含層を上から掘り込むことから中世末期頃の遺構であり、16世紀頃この付近に屋敷地を営んだとされる代官行松氏の関連の遺構の可能性が考えられる。

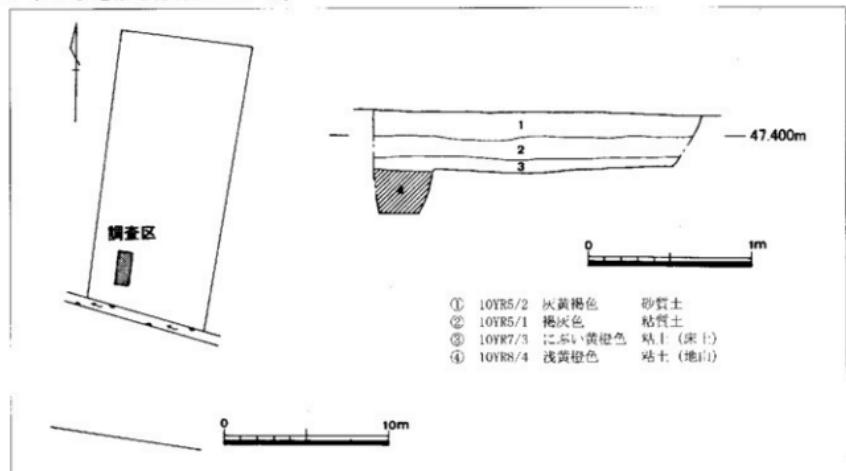
### 小垣内西遺跡10-1区の調査

調査地 小垣内西1丁目110番1号

調査期間 平成22年8月3日

#### 位置と環境

調査地点は平成13年度にできた住宅地の東に隣接する地点であり、その住宅地の開発時に当遺跡が発見された訳であるが、その際この東側部分では建物のものと思われる掘立柱が数基検出され、集落が広がっているものと考えられる場所である。周囲は住宅や商店に囲まれ、この付近に以前よく見られた田畠は非常に少なくなってきた。北方向に緩やかに丘陵が広がり、南側には見出川が流れている。調査地点付近は比較的高低差が少ない平坦な地帯を形成している。



#### 調査の内容と結果

調査は機械掘削によって実施し、地表面から黄褐色粘土の地山まではおよそ0.3mで達することがわかり、確認のために地山面の一部をさらに約0.3mほど人力掘削したが、黄褐色粘質土のままであった。地表面から0.15mまでは水田を埋め立てた造成土で、その直下に暗灰色の耕作土が0.15mほど存在し、直下に地山が出て来る状況であった。地山

の黄褐色粘質土の表面は耕作土が営まれる前に削り取られていることがわかつた。残念ながら遺構や遺物等埋蔵文化財は一切検出せず、平成13年度の住宅地の開発時に検出した遺構群に繋がるようなものは見られなかつた。

### 第3節 野田遺跡 10-2区の調査



#### 野田遺跡について

野田遺跡は熊取町役場周辺一帯の約260,000m<sup>2</sup>にも及ぶ集落遺跡である。そのうち熊取町役場前の45,000m<sup>2</sup>程の地域については、平安末期以降の寺院の瓦群やその他の埋蔵文化財が非常に多く出土し、寺院を示すものと考えられる小字名が残されている区域であることから、当初から寺院跡の遺跡「東円寺跡」としていたが、この区域よりも外側における発掘調査出土例の増加とともに、「東円寺跡」の範囲は飛躍的に拡大して、野田地域をほぼ囲む程の町内最大の範囲を有する遺跡になってしまっていた。さらに、奈良期以前の埋蔵文化財が確認される例も増え、平安末期に創建されたとされる寺院遺跡の性格を超える様相であることからも、平成15年11月に本来の「東円寺跡」部分と、それより広範な集落遺跡「野田遺跡」に分割したのである。

野田遺跡では、町立中央小学校の調査で縄文時代早期と推定される尖頭器が出土した他、現在の野田の住宅街の調査で、奈良期の掘立柱建物群や須恵器などが検出され、野田遺跡の集落が営まれた時期は少なくとも奈良時代まで遡ることが推測されている。また調査の成果から、集落は中世初期頃にもっともよく繁栄していたことも推測される。発掘調査の成果からは、集落が室町時代の中期頃より減じて農地化したこととも推測されている。

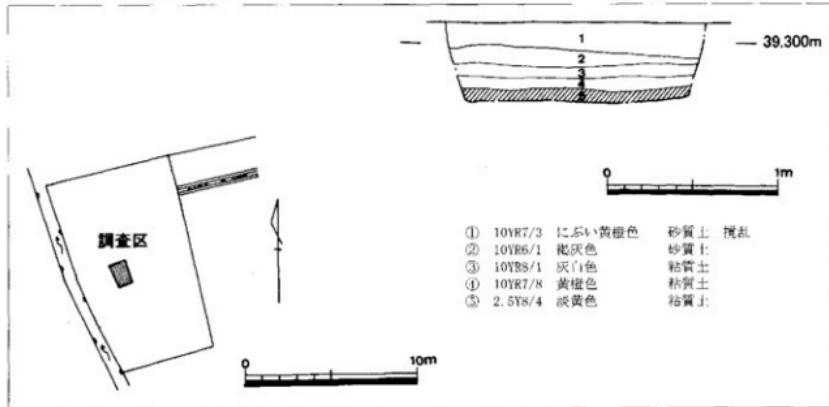
## 野田遺跡 10-2 区の調査

調査地 野田 3 丁目 2288 番 2 の一部、2288 番 7

調査期間 平成 22 年 9 月 2 日

位置と環境

調査地点は野田遺跡の中央部北端に位置し、熊取町役場と大阪外環状線を挟んだ向かいに位置している。この付近の大坂外環状線は現在周囲より一段高い位置に営まれているが、元来は一段低い谷状地であった場所で、熊取町役場側に旧寺院があったとされる広大な遺跡が広がっている。大阪外環状線の北側から申請地を含む丘陵地帯は町営住宅や熊取町図書館が建設されている大原地区と呼称されており、調査ではこれまでのところ目立った成果は出でていない。申請地から 150m 西北の平成 5 年度の店舗建設に伴う確認調査（東円寺跡 93-13 区）では、中世の埋葬に関する土壙を 2 基検出し、旧寺院（東円寺跡）に関連があるものと推測されている。申請地は同じような立地にあるため、この付近で類例が発見される可能性がある。



### 調査の内容と結果

調査は重機を使って予定建物の基礎深度まで掘削した。現地表面から -0.35 m で黄褐色粘質土の地山に達するが、地表面から -0.1 m までに耕作土を埋め立てた造成の土が見られ、以下に 0.15 m ほどの厚みの灰色の耕作土があり、近世ぐらいのやや堅さのある明灰色の耕作土が約 0.1 m あり、先の黄褐色粘質土の地山に達する。地山面の表面は比較的平滑であるため、耕作を行なう際には何らかの造成を受けていると考えられる。これらの層からは埋蔵文化財は一切検出しなかった。

## 第 4 節 野田遺跡 10-3 区の調査

調査地 紺屋 1 丁目 176 番 1 の一部

調査期間 平成 22 年 11 月 16 日

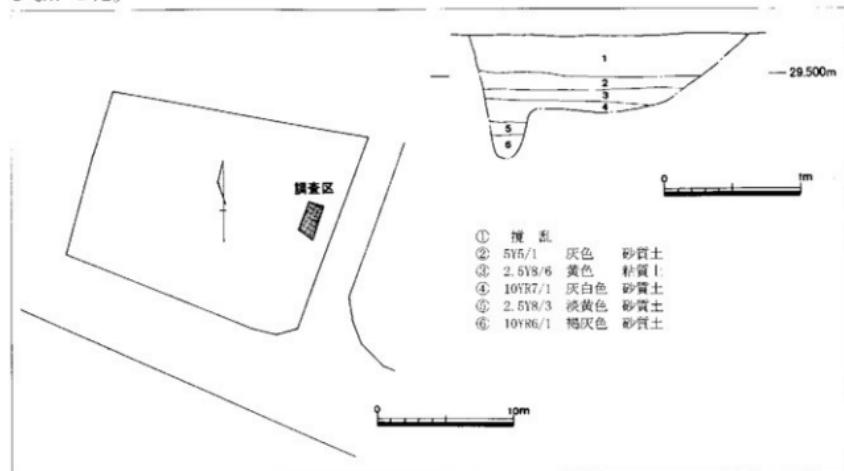
位置と環境

調査地点は野田遺跡の西端に位置し、熊取町紺屋の集落に面している。調査地点の南側には旧中林綿布工場を保存再生した熊取交流センター煉瓦館の広大な敷地が広がる。この

付近では平成7年度の道路拡幅工事に伴う調査と、平成15年の熊取交流センター建設工事に伴う調査で、奈良時代の溝状の遺構を検出するなどしている。

#### 調査の内容と結果

調査は重機で約1mほど掘削して行ったが、現地表面から0.3mほど掘削すると、近世の耕作土と床土があり、-0.5m以下に中世から古代にかけての耕作土層が数層見られた。掘削範囲で最下層の褐色灰色の砂質土層は古代の層の可能性がある。埋蔵文化財は一切検出しなかった。



#### 第5節 野田遺跡10-4区の調査

調査地 紺屋1丁目1044番2の一部

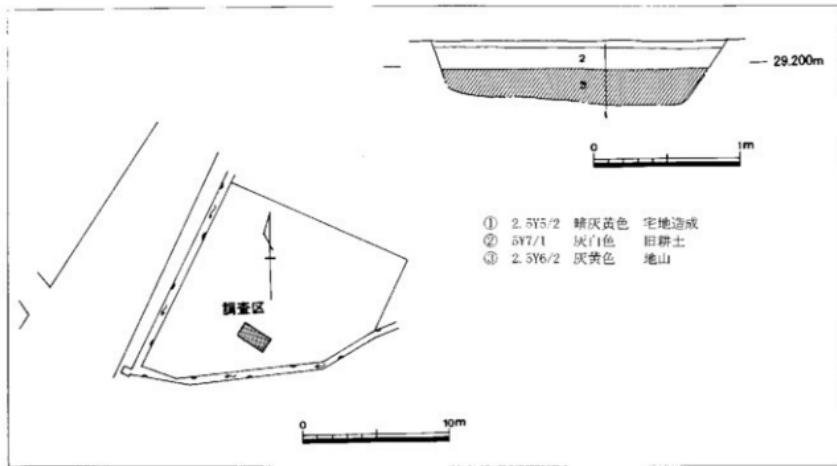
調査期間 平成22年11月29日

#### 位置と環境

10-4区は先の10-3区の西約50mに位置し、町道五門七山線を挟むとさらに西側には紺屋の町並みが広がる。紺屋の集落の中は起伏が小さい平坦な地形になっているため、割と古くから開発等が行われたと考えられるが、申請地の南側は住吉川の流域となっており、申請地以南は現在一段低い住宅地域になっている。この付近では本格的な発掘調査が行われたことはないが、中世の包含層を中心として、古代の層まで存在する可能性がある。

#### 調査の内容と結果

1か所の調査区を設定して、予定建物の基礎深度である地表面から-0.4m付近まで機械掘削を実施して調査した。現地表面下-0.2m付近に明灰色の砂層の自然地層が地山と考えられる。その上部には灰色の耕作土系の粘質土層が1層見られ、最上部に近年の造成の土層が0.1mほど存在して地表面を形成している。埋蔵文化財は一切検出しなかった。



#### 第6節 東円寺跡 10-1区の調査



東円寺について

東円寺（東耀寺）は現在地上に何ら痕跡を残していない。16世紀に著述されたとされる『葛城峯中記』に「野田山…」の記述がされる寺院で、平安時代末頃に創建され、中世～近世を通じて存続したものの明治維新の廃仏毀釈で完全に法燈が絶えたものとされている。

また江戸時代に著述された『先代考拠略』によれば、東円寺はかつて「東耀寺（トウヨウジ）」と呼称されていたとされる。中世の東耀寺は豊臣秀吉の来襲で完全に焼亡したと

されるが、江戸時代に入って再建され「東円寺（トウエンジ）」と呼称されるようになったという。

現在の遺跡としての東円寺跡の範囲内においては、これまで多くの発掘調査が行われて瓦器梶を中心とする中世の遺物と掘立柱建物跡が検出されているが、肝心の寺院の推定中心地では本調査・確認調査が行われていない。周辺地の調査で出土した複弁蓮華文軒丸瓦や均等草文軒平瓦のうち残存状態の良いものは熊取町指定文化財に指定されている。

また発掘調査の成果から、熊取町野田にあったこの寺院は創建後数十年経た鎌倉時代に火災で大方の建物群が焼亡した可能性がある。出土する中世土器群の比較観察からすれば、火災が起きたのは13世紀代だったのではないかと思われるが、その火災の原因等については今のところ不明のままである。また創建期の寺院が焼亡した後は、規模を縮小して復興したものと考えられるが、寺域の大部分は農地に作り変えられたらしいことがわかっている。引き続き周辺に集落が営まれたようで、尾上式瓦器梶編年によるIV期の所産が多く検出されている。15世紀以降の遺物は極端に少なくなるが、これは寺院の繁栄や集落の規模などの変遷に比例しているものと思われる。

### 東円寺跡 10-1 区の調査

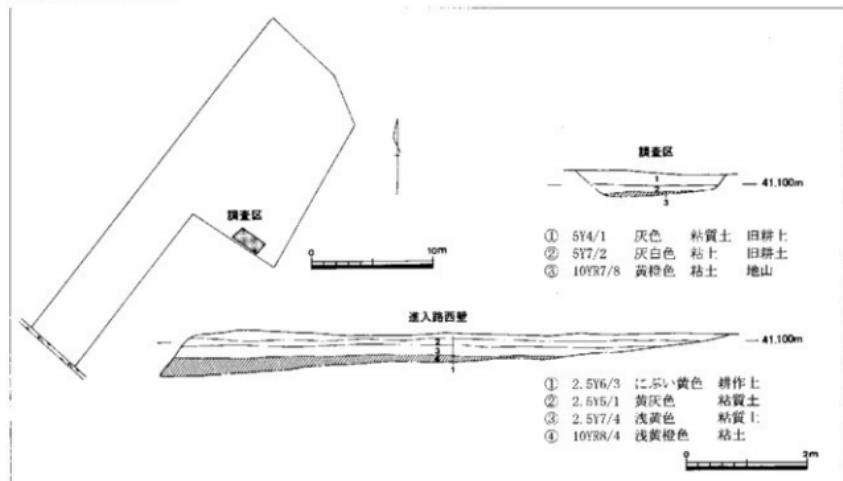
調査地 野田 2 丁目 2209-5 他

調査期間 平成 22 年 9 月 27 日

#### 位置と環境

10-1 区は平成 20 年度に調査実施した 08-1 区の西側に隣接している地点で、寺院関連の小字名「大門下」が残っている場所である。08-1 区では地表面より非常に浅い位置に削平された地山が見られ、この付近の工事では遺構が破壊される可能性があり注意を要する。

#### 調査の内容と結果



調査区を図のように設定して、機械掘削の後精査を行った。調査区では、予定建物の基礎深度である地表面から-0.3m付近まで掘削し、地表面より-0.15m付近に中世のものと思われる土層が0.15m幅で1層確認でき、それ以下に黄褐色粘質土の地山が観察された。また、申請地の北西端が既に工事によって進入路として掘削を受け、幅広く断面が露出していたため、これも壁面として土層観察した。申請地内には埋蔵文化財は存在していないと考えられる。

## 第4章 まとめ

### 大谷池遺跡

今回の調査は比較的小規模な調査だったので、以前の調査で確認した大谷池の築堤に関する遺構や遺物検出はなかったが、小規模な調査に留めた地点を数十年後に再び工事を行う際にはその工事の性格に合わせて調査を行う必要がある。

### 小垣内西遺跡

今回の調査では、平成13年度に遺跡として新たに発見周知された際に検出した溝や柱穴跡に続く遺構や遺物は検出しなかった。現在遺跡として周知されている範囲は、住宅地の開発の範囲そのままであるが、この遺跡は中世の集落遺構を中心とする遺跡であり、溝などの大きな遺構が明らかにこの範囲の外側にも広がっているものと考えられるため、今後も隣接地や周辺地を含めて注意を払う必要がある。

### 野田遺跡

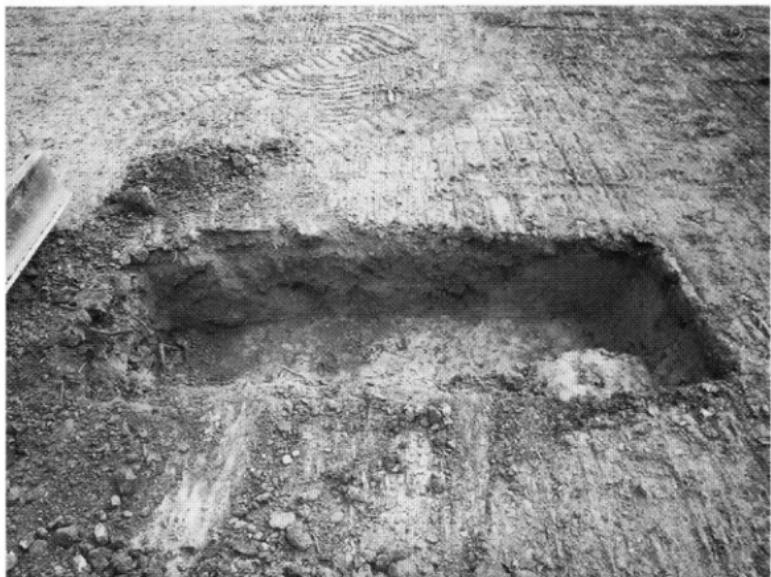
10-2区は平成5年度に埋葬関連の遺構と思わしき土壙群を検出した調査地点との立地上の共通点から、同様の遺構が検出されることが期待されたが、今回の調査では、個人住宅の建設に伴う小規模な確認調査であったこともあり、埋蔵文化財の確認には至らなかった。

10-3区は今回の工事の範囲には埋蔵文化財は何ら存在していないかったが、手掘りによる追加調査によると、比較的深い地中に中世や古代の層が存在することが確認された。これらの層は96-3区や、熊取交流センター煉瓦館の建設の際に検出した須恵器杯を含む古代の溝などと関連するものと考えられる。

10-4区は10-3区から西へ約50mの地点で、10-3区で確認された古代までの層などが検出される可能性があったが、調査掘削の範囲内には大幅な盛土があるのみで、今回の工事で基礎掘削する範囲に埋蔵文化財は存在していないかった。この付近は野田遺跡の西部に当たり、野田遺跡の主要な遺構である中世集落が検出されたことがほとんどない地域であるが、古代の遺構等が存在する可能性があるので今後も注意を要する。

### 東円寺跡

今回の10-1区の調査地点は寺院があったとされる範囲の東南部で小字名「大門」という場所の東側に相当するため、旧寺院の外郭部等を検出する可能性もあったが、非常に浅い位置に検出した地山面は、その上部に存在していたであろう包含層などとともに既に削平を受けており、遺構は遺物とともに検出できなかった。周辺地から溝などの比較的深い遺構が検出される可能性があるが、この地点にはもはや何も残されていない。



大谷池遺跡09-1区 調査区全景



大谷池遺跡09-1区 調査区壁面



小垣内西遺跡 10-1区 調査区全景



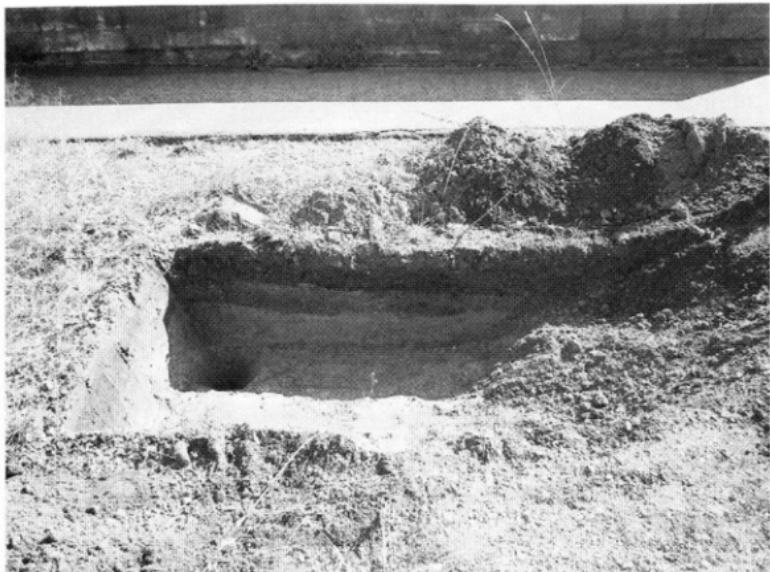
小垣内西遺跡 10-1区 調査区南壁面



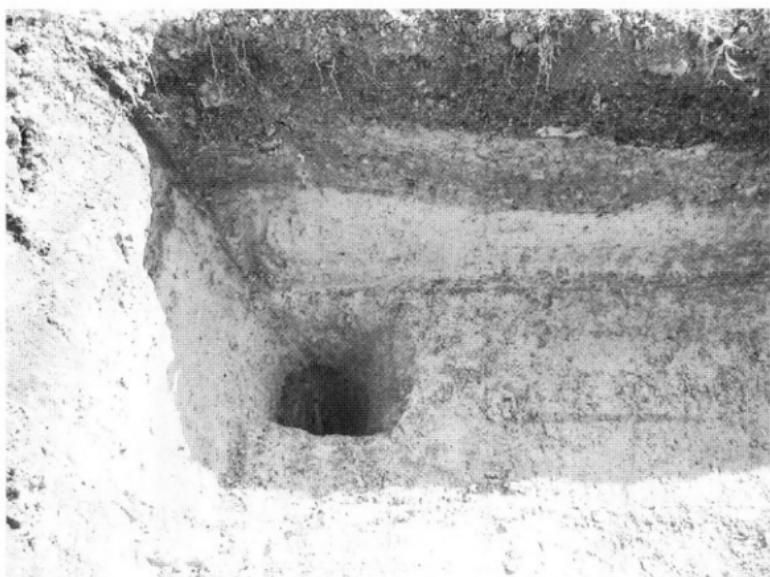
野田遺跡 10-2区 調査区全景



野田遺跡 10-2区 調査区壁面



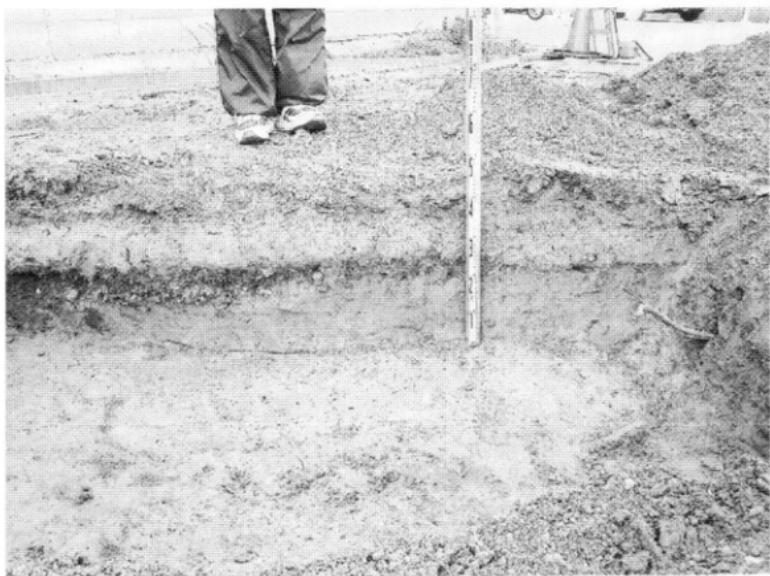
野田遺跡 10-3区 調査区全景



野田遺跡 10-3区 調査区壁面



野田遺跡 10-4 区 調査区全景



野田遺跡 10-4 区 調査区壁面



東円寺跡 10-1区 調査区全景



東円寺跡 08-1区 調査区壁面

## 報告書抄録

ふりがな	くまとりちよういせきぐんはつくつちようさがいようほうこくしょ						
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書						
巻次	XXV						
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第53集						
編著者名	前川 淳						
編集機関	熊取町教育委員会						
所在地	〒590-0495 大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号						
発行年月日	西暦 2011年3月						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村 遺跡番号					
大谷池遺跡 09-1区	大阪府泉南郡 熊取町桜が丘	27361	15 34° 24' 11"	135°21' 08"	20100225	3.0	個人専用 住宅建設
小垣内遺跡 10-1区	大阪府泉南郡 熊取町小垣内西	27361	40 34° 23' 45"	135°21' 48"	20100803	3.0	個人専用 住宅建設
野田遺跡 10-2区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	42 34° 23' 57"	135°21' 26"	20100902	3.0	個人専用 住宅建設
東円寺跡 10-1区	大阪府泉南郡 熊取町野田	27361	4 34° 23' 46"	135°21' 26"	20100927	3.0	個人専用 住宅建設
野田遺跡 10-3区	大阪府泉南郡 熊取町糸屋	27361	42 34° 23' 55"	135°21' 05"	20101116	3.0	個人専用 住宅建設
野田遺跡 10-4区	大阪府泉南郡 熊取町糸屋	27361	42 34° 23' 55"	135°21' 08"	20101129	3.0	個人専用 住宅建設
所収遺跡	種別	遺跡の主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
大谷池遺跡09-1区	散在地	古墳～江戸	なし	なし	なし		
小垣内西遺跡10-1区	集落跡	奈良～宝町	なし	なし	なし		
野田遺跡10-2区	集落跡	绳文～江戸	なし	なし	なし		
野田遺跡10-3区	寺院跡	平安～江戸	なし	なし	なし		
野田遺跡10-4区	集落跡	绳文～江戸	なし	なし	なし		

熊取町埋蔵文化財調査報告 第53集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XXV

発行日 平成23年3月

発行・編集 熊取町教育委員会  
大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号

印刷 (有)山村印刷  
大阪府貝塚市近木1483-8